

題目	龍間地区の住民意向に関するアンケート分析		
氏名	荒木 貴大 日野 敬太	(学籍番号 07V002) (学籍番号 07V135)	指導教員 吉川 耕司

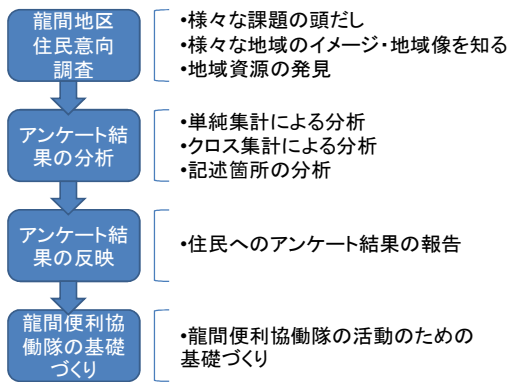
1. 研究の背景と目的

本研究では、大東市龍間地区に発足した龍間便利協働隊の依頼により、龍間地区住民を対象として住民意向アンケートを実施した。このアンケート結果を分析することにより、住民の現状に対する不安と将来に対する不満など龍間便利協働隊の活動に関する住民ニーズを把握することが目的であり、研究成果は龍間便利協働隊の今後の活動の基本として活かされる予定である。龍間便利協働隊とは、大東市の公募型委託事業において活動を認められた組織であり、高齢化が進みつつある龍間地区で将来にわたって安心・安全に暮らしていくための地域像を住民の手で創りあげ、地域の活性化につなげていくことを目指している。



図 1 航空写真から見た龍間地区

2. 研究の構成とフロー



本研究の構成とフローを上にも示す。龍間地域での生活実態と課題に関するアンケートを作成・実施し、単純集計、クロス集計、記述式部分の集計など様々な角度から分析を行った。そしてアンケート結果を龍間自治会で報告し、龍間便利協働隊の活動の基礎として活かせるように反映するという手順で研究を進めた。

3. アンケートの概要

アンケートは龍間地区全域に住む中学生以上を対象とし、世帯毎に配布した。配布世帯数 169 に対し、回収世帯数 168・回収票数 487、また有効世帯数 167・有効票数 476 と高い回収率と有効票数で、龍間住民の意見がほぼもれなく反映されたアンケートとなった。

4. アンケートの分析

アンケート結果に対して分析を行ったが、特に住民の意見が顕著にあらわれたものを例としてあげる。

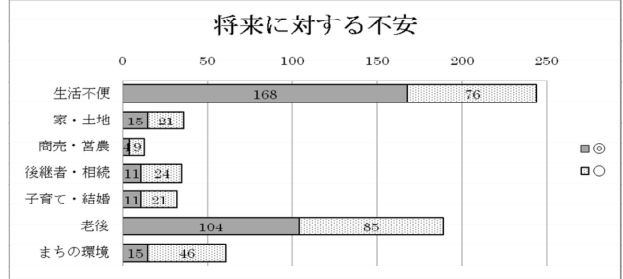


図 2 将来に対する不安 (単純集計)

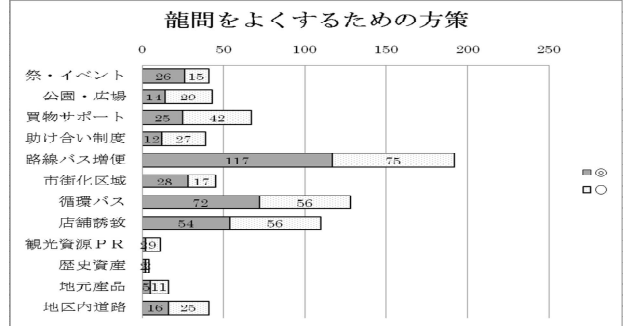


図 3 龍間をよくするための方策 (単純集計)

図 2 は、「将来に対する不安」に関する質問について最も不安に感じている項目を◎、次に不安に感じている項目を○との、その意見をグラフにまとめたものである。将来に対する不安において、◎の項目のみを比較すると、生活不便は全体の約 51% であり、老後は全体の約 32% であった。◎と○を合わせてみても、生活不便は全体の 40%、老後は約 31% となっている。この結果から、高齢化が進みつつある龍間地区において、生活するうえでの不便さや老後の生活に関して不安を感じている住民が多いという現状は、極めて優先して解決していかなければならない問題であるといえる。

また図 3 によると、龍間をよくするための方策としては路線バス増便や循環バス、店舗誘致の項目を選択している方が多い。その一方で、龍間地区は全体が市街化調整区域に指定されており、店舗の誘致という多数意見は実際には困難である。市街化調整区域には、都市計画税が課税されることがないという利点がある一方で開発が抑制されることから、市街化区域にすることが龍間をよくするための方策という意見も全体で約 6% と少数ではあるが龍間地区内で意見がわかれている。このように、主に単純集計やクロス集計に関して、現状についてわかることや問題点を指摘・分析している。

5. 結論

本研究の結論として、地域の性質から路線バスの増便や循環型バスの設置など交通の便をよくしたいという意見が年代を問わず多くあったこと、将来的に龍間で生活するうえで不安を感じているという意見が多く、そのような点を改善してほしいといった意見が目立つアンケート結果となった。この結果から龍間便利協働隊は路線バスの不足を補う交通面での手助けを行う必要があると考えられる。

